令和８年 10 月 12 日

ブロック長　各位

宮城県サッカースポーツ少年団協議会
理 事 長　鈴木　裕也
競技部長　岡田　　尚
審判部長　太田　大介

JFA 第 50 回全日本 U-12 サッカー選手権大会 2026 宮城県大会
に係る帯同審判員等について（通知）

日頃より、本協議会ならびに審判業務の運営に対し、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、標記大会が来る 10 月 25 日より開催されます。

これまでに開催された４年生大会および新人大会においては、競技規則の理解不足や走力不足に起因する判定ミスが多い旨、各ピッチに配置した審判サポートより報告を受けております。

ご承知のとおり、本大会は６年生にとって最後の公式大会となります。また、初戦からトーナメント戦で実施されるため、より正確かつ公正なレフェリングが求められます。

つきましては、各ブロック長におかれましては、所属チーム（帯同審判員およびチーム役員）に対し、以下の点について周知徹底をお願いいたします。

- **「審判留意事項」の熟読**
  本大会でも発出する「審判留意事項」にレフェリングに必要な全ての事項が包含されております。チーム役員を含めて熟読願います。
- **適切な帯同審判員の選定**
  ある程度の実技経験があり、本大会において十分なレフェリングが可能とチームが判断した方を帯同審判員として選定願います。

各チームのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

帯同審判員は本事項を熟読した上で試合に臨むようお願いします

JFA 第 50 回　全日本 U-12 サッカー選手権大会 2026 宮城県大会における審判留意事項

ＭＦＡ４種委員会審判部

しっかりとした理解のもとに試合をコントロールするために、試合の前の日までに**競技規則（2025-26 適用）をもう一度読み返し**た上で試合に臨みましょう。

レフェリージャージ上下・ソックスを着用し、レフェリーワッペン（左胸）リスペクトワッペン（右腕）を装着してください。

スポーツめがねの装着可能ですが、可能な限りコンタクトレンズを推奨します。指輪、ネックレス、ブレスレットの類いも装着不可です。

各ピッチには宮城県４種審判部役員がサポートとして配置されていますので、不明な点や解釈を曖昧にせずに積極的に助言を受けてください。

主審・補助審判員は以下の事項に留意し、競技規則遵守の下、選手がより公平で公正な条件で試合に臨めるように努力していただくようにお願いします。

主審

- 試合**開始前終了後のセレモニーは通常どおり**行ってください。但し、何らかの影響により競技会進行に遅延をきたしてしまった場合など本部から省略の指示が出る場合があります。
- 補助審判員と**協力してゲームコントロール**をしましょう。
- **常に足を動かし**ピッチ内を走り、争点との距離感（10～15m）を意識しましょう。
- 縦への動きだけなく、横も意識しピッチ内をまんべんなく動いて監視することに努めましょう。
- 周囲から判定に信頼を得るためにも、**争点を近くから監視**できるよう**走りましょう**。
- タッチライン・ゴールラインを**確実にボールが超えたかどうかが、しっかり目視し確認した上で判断**し、決して憶測・ベンチや選手からのアピールなどで判断しないようにしましょう。
  - そのためには、縦方向だけでなく**横方向への素早い移動**も意識しピッチ内を広く動けるようにしましょう。
- 確信の持てない事象にはあえて**ジャッジしない**ことも大事です。例えばゴールラインをボールが確実に超えたかどうか自分のポジションから見えなかった場合など、周りの雰囲気でゴールを認めたり、自分のポジションから微妙な状況でのオフサイドの判定をしたりすることの無いようにしましょう。そのためにも近くに寄ることや幅を取る意識が重要です。
- ファウルの事象を復習し直接フリーキック７項目においては、**「不用意」「無謀」「過剰」**の判断が適切にされるように意識してください。
- ハンドの反則について十分に理解していない方も見受けられますので、競技規則を確認し適用を誤らないようにしてください。
- **警告**（遅延、異議、意図的なピッチからの退出、ＦＫ・ＣＫ・スローイン時の距離、繰り返し、反スポーツ的などの各行為）・**退場**（DOGUSO、著しく不正、咬むつば、乱暴、２度目の警告など）など**懲戒措置をとる**ことが重要です。**迷ったときは補助審と協議**するのも手段の一つです
- **「決定的な得点機会の阻止（DOGSO）」**など重大な場面ったにも係わらず、懲戒無しで済ます場面を見かけます。**4 条件**を事前に再確認しましょう。**（※2026 講習会にて確認しました）**
  - 選手が小学生だからなどといった**忖度せずに規則に則って**必要な懲戒を下すことも選手育成の一環と考えてください。（必要に応じて説明を加えるなどの工夫をお願いします）

帯同審判員は本事項を熟読した上で試合に臨むようお願いします

- **アドバンテージ**の適用や**クイックスタート**を妨げないようにし、スムースなゲームコントロールを心がけましょう。（再開位置を厳格にしすぎてクイックさせない審判員をたまに見かけますが、あくまでも反則された側が優位に始められるタイミングを尊重してあげるべきです）
- フリーキックマネジメント・ＰＫマネジメントなど、各種**再開における手順**を事前にしっかり確認しましょう**（やりかたがわからない人は試合前にサポートに教えを乞うてください）**。
  - 審判員がフリーキックとなる反則が起きた場所に速やかに移動し、守備側選手を離れるよう促し離した後、その選手が再びボールに近づいた場合は**警告**です。またクイックスタートをしようとしているところに近づく行為も**警告**の対象です。
- **ペナルティマークからのキック**の進め方についてしっかり予習することが必要です。特に副審がいないことによる**「ボールがゴールラインを越えたか」「キッカーがボールを蹴る前にＧＫがラインを離れた」**などの見極めを**１人で監視する**ためのポジションを意識しましょう。
- **負傷の対応**では、重篤と判断した場合試合を止めてベンチスタッフを入れる。スタッフがピッチに入った場合は選手を必ず１度ピッチ外に出さなければなりません。選手が**頭部に負傷**を負ったと判断したときは**直ちに試合を止めて**、負傷者の確認意識レベルなど確認。ベンチスタッフがピッチ内入っても直ちに動かさないにしましょう。（ここは時計を止めて充分な時間をかける）
- ＧＫがボールを手で保持している状況で、残り５秒からのカウントダウンは、既にボールを手放そうとする動作が感じられる場合はしなくても構いません（早期再開を促すのが目的）。
- オフサイドの判定をする際には、オフサイドポジションの後ろにいる競技者や自分の背後にいる守備側競技者のポジションを確認した上で、条件が成立してから笛を吹きましょう。

補助審判

- 常に試合を監視し、**競技規則に則って試合をコントロールできているのか**確認しましょう。主審が競技規則の適用を誤っていると判断した場合には声を出して主審を呼ぶことも必要です。
- 特に、アウトオブプレーから再開する際に**再開方法の誤りに気が付いた場合は、再開する前に主審を呼び止める**ことも重要です。（よく見かけるのが、ドロップボールによる再開の場面で別の方法を以て再開してしまった。またはドロップする側を特定しなかったなど）
- 選手交代は自由ですが、希に交替ゾーン以外から出入りしようとする選手がいますので交替ゾーンを促してください。また、ゴールキーパーの交替はアウトオブプレーになったときにゴールライン側から退出したのを確認後に入場させてください。
- 交代時のビブス受け渡しは不要です（フットサル規則と混同しないように）。
- ベンチ内の指導者が暴言や執拗なアピールなど責任ある行動を取らないなどの行為があった場合には、主審に報告し懲戒措置をとってもらいましょう。
- この場合主審が、その行為を行った者の特定ができていない場合も考えられるので、極力確認しておきましょう。
- テクニカルエリアが表示されない場合、タッチラインから約１ｍ以内に入ったままや極端にハーフウェーライン方向に立ちっぱなしの指導者には、戻るように注意をしましょう。
- 出血によりピッチから一度出た選手が戻る際の止血確認を主審から依頼された場合は確認してください。

帯同審判員は本事項を熟読した上で試合に臨むようお願いします

- ベンチ入りできる指導者は３名以内、**ベンチから戦術的指示ができるのは都度１名であり**、立つ立たないにかかわらず同時に２名以上のコーチングが著しい場合は注意が必要です。
- 試合中、交代要員選手はアップしている以外は座るよう促してください。（ボール使用不可）
- 観客席からの罵声や得点した際などの異常な盛り上がりが問題視されています。度が過ぎると感じた際はチーム指導者に適切な措置をとってもらえるよう指摘願います。
- 公式記録は、試合中主審と確認を取りながら補助審が記載します。審判報告書を兼ねますので試合終了後、記載内容（懲戒理由などについても）を主審と再確認の上、本部提出願います。

打合せ

- 試合開始前までに、本部またはその他の場所にて主審・補助審判で打合せを必ず行うこと。
  - ゲームコントロールを確実にするために試合前の打合せは必須です。以下の項目についてそれぞれの役割分担についてしっかり打合せした上で試合に臨んでください。
    - 前後半終了時アディショナルタイムの伝達方法をどうするのか！
      - 伝達のタイミング（例：約１分前→補助審は、立ち上がって１歩前に→主審は補助審に向かって「指と腕の位置で表現 or 逆数字を書く」など）
    - ＰＫの時の主審と補助審の位置と役割・合図の確認（サークル内管理ほか）
      - 試合中のＰＫにおけるそれぞれのポジションとマネジメント
    - 試合の記録についての確認（得点・警告・退場など）
    - 負傷事故発生時の対応（重篤な怪我、脳震盪の疑い、止血の確認など）
    - 交代の手続きと用具の点検
    - 主審が競技規則の適用を明らか間違えていたり、時間管理を間違えていた場合の対応について。
    - ベンチの管理　・・・　　など

その他

- 希にソックスが破れて、すね当てが現れている選手や極端にソックスが下がっていたら、接触した際に怪我につながる可能性がありますので、用具チェックの際に気がついたら履き替えさせるか、すね当てが隠れるような履き方を促してください。
- セパレートタイプのソックスを着用する選手がいますが、用具の緩和には該当しないため、上下で色違いの場合は履き替えさせるなどの対応をお願いします。
- 本競技会は「キャプテンオンリー」を適用していませんが、ゲームキャプテンのアームバンド着用は推奨扱いにしています（必須ではありません）。
- スポーツめがねを装着する選手で、表面が硬質プラスティック製を見かけることがあります。事故が起きてからでは遅いので、発見した場合は（原則は外してもらう）チームに対応を促してください（万が一事故が起きてしまった時の自身のリスク回避も）。
- 担当する試合の開始３０分前にはメンバー表がそろっていますので、本部からメンバー表が挟んであるバインダーを持って次の**試合開始時間が遅滞することのないよう**（試合開始 10 分前）に準備願います。また、終了後はバインダーと公式記録用紙（審判員、両チーム代表者の確認サインを忘れずに）を記入の上、本部に返却願います。（公式記録用紙は事前にチーム代表者にデータを送っているのでチーム毎に印刷して持参のこと）